

国家主義者たちの大罪～日本国憲法に見るグローバルな時代の正しい生き方～

根岸線沿線9条の会は10月15日(日)午後5時から横浜港南台教会を会場に、浜矩子氏(同志社大学大学院教授)をお招きして講演会を開きました。浜氏に過密スケジュールを調整して頂きました。開始時間は夕方、当日は小雨で、主催者側はヤキモキしましたが、蓋を開けると、続々と聴衆は集まり、満席となりました。モニターテレビで、2階のホールでも多くの方々に聴いていただきました。偶然にも、衆議院選挙直前となり、この企画はタイムリーとなり、大ヒット！

従って、受付係のボランティアとして、港南台9条の会の方と二人で、切符切りと、当日券販売、チラシ・アンケート配布、預券の引き渡し、入場者数と現金のチェックという作業はもとより、友人、知人への挨拶、お礼、会場案内など、その上、遅れて見える方への対応もあり、多忙を極めました。結果、浜氏の講演のイントロ部分、また、序論の部分聞くことが出来なかったのが、本当に残念でした。でも！浜氏の切れのいい、明確な言葉遣いの「矩子節」がマイクによく乗って受付にも聞こえてきました。たちまち引き込まれてしまいました。



「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」(ヨハネ1:5)という聖書の言葉が聞こえてきました。さらに、「闇は自分が闇であることが分からないのだ」と付け加えられました。「闇の正体とは何か」。それは「国家主義、国粋主義軍団であり、安倍政権、トランプ政権だけではなく、右翼、左翼を問わず、世界各国での傾向である」とのことです。

トランプ政権は「アメリカ、ファースト！」の国家主義で引きこもり型、安倍政権は「世界の中心で輝く！」の国粋主義で拡張主義型。いずれも排外的、自己中心的で、他者、弱者が視野に入らない。この闇軍団は「聞こえのいい言葉」を発し、「敵は〇〇だ！」と愛国心に訴える偽預言者である。けれども、今や世界のグローバル化は避けられない。大が小を飲み込む危険性はありますが、同時に大企業と言っても小さな部品を作る零細企業と組まなければ立ち行かない現実を日本人は3.11の大震災で知らされました。誰も一人では生きていけない時代です。グローバル現象に正しく対処する知恵を持つべきです。この闇に対して、光を照らす理念が日本国憲法の前文に明示されていると言われます。

1. 諸国民との協利による成果
2. 平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して
3. いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない

一言でいえば、**国境を越えて協利し、信義に信頼すること**によって、疑心暗鬼から抜け出し、すべての人々の命、平和が守られるのだということです。この憲法を守ることは、光の側に立つことであり、闇との綱引きを、真剣にしなければなりません。闇はあまりにも暗く、底なしの淵に思えても、私たちは光が輝いていることを知っている。一歩ずつでも光の側に綱を引こう！と勧められました。

活発な質疑に、はっきりと応答されました。憲法違反の自衛隊は災害救助隊に。メディアの存在理由は体制批判にある。市民はメディアをリードし、サポートする使命がある。若者が保守的なのは自己保存であり、当然。従って知恵ある老人の出番だ、etc. etc. すべての人間が神の愛によって生かされていることを謳歌された講演でした。政治が荒廃し、気落ちしそうな今、勇気づけられる素晴らしい講演会でした